

平成 29 年度 亀田東児童館事業実施報告書

1 実施した事業

2 自己評価

3 課題と対応

1 健全な遊びを通じた児童の集団及び個別指導

① つくって遊ぼう！（創作活動室） 第2水・土曜日

(4/8、12、5/10、13、6/7、14、7/5、12、8/9、23、9/6、13、10/11、11、11/8、15、12/6、11、1/10、17、2/7、15、3/14、16)

(自己評価)

今年度は、幼児向けを第二水に、小学生向けは土曜日を廃し、下校の早い日に工作行事を行った。幼児向け工作では、0～3歳児位までの幼児が参加し、親子で取り組むことが出来る内容で行なった。子どもの発達に親が気付く場面もあり、工作行事を通じて親が子どもの成長の新たな気付きや発見の場となったと感じている。親子で一緒に作る事が子ども達にとって一番嬉しい事のように思えた。また、作った工作は家でも遊べるものを多く採用したため、家庭でも楽しんでもらったのではないかと思う。小学生向けの工作では、子ども達が興味を持てる内容に努めた。季節にちなんだ工作などを行ない、多くの小学生やひまわりクラブからも参加してもらった。季節にちなんだ「ハロウィンお菓子ボックス」や敬老の日にちなんで、祖父母に渡す「フォトフレーム」などは30人近く参加があるほど人気だった。幼児、小学生共に物作りの楽しさ、完成出来た時の達成感や完成度、そして家に持ち帰って、家族にも喜んで頂いた様子が伺えたのが何よりだった。

(課題と対応)

毎月の定例イベントであるが参加者にバラつきがある。単に興味をそそらない内容ということではなく、日にちが合わなかったことや、単に忘れていた事もあった。内容充実に努め、季節に合ったもの、カレンダーに沿ったものなど子ども達の意見を取り入れて行った。下校の早い日に設定したのは良かった。土曜日に行くより、子ども達の参加が多くみられた。季節物、可愛い物は、ニーズがあるので次年度はそういった物を多く提供していきたい。今後も工作の内容や、PR活動のより効率的な方法を工夫していかなければならない。

② 遊戯室で遊ぼう！（遊戯室）

(4/24、5/29、6/26、7/24、8/28、9/25、10/23、11/27、1/22、2/26、3/26)

(自己評価)

集団遊びをキーワードに、ドッジボール、なわとび大会、わらべ歌あそび、ボールゲーム、ジャンケンゲーム、ジャンボオセロなど様々な遊びを行なった。参加人数は内容によってバラつきはあるものの、異年齢同士が協力したり、チームで応援したり、高学年が低学年の見本になりルールを守ったりと児童館ならではの様子を随所に見ることが出来た。ひまわりクラブからも毎月参加があり、ひまわりクラブの子ども達と児童館

に遊びに来る子どもが交流することも出来た。

(課題と評価)

今年度12月に「こども自然王国」から移動児童館で「遊戯室であそぼう！」を行う予定だったが、大雪のため、来館出来ず中止となってしまった。皆がとても楽しみにしていたので残念だったが、次年度の3月に行う事を約束してくれた。期待していきたい。毎年の課題ではあるが、児童館という施設の特性上、人数予測やチーム編成で難しい点があった。イベントの前日など、忘れてしまわぬよう申し込みをした子に声をかけるなど、多くの子どもに楽しんでもらえるよう配慮すると共に、子どもたちへの周知が課題であると思う。今年度は1年生の参加が多くみられ、とても楽しみにしている様子だった。その反面ルールを理解させ、危険のないよう配慮する工夫が今後も必要不可欠である。

③ シアター (遊戯室)

(4/3、5/5、6/4、7/17、8/7、9/17、10/9、11/5、12/3、1/8、2/4、3/4)

(自己評価)

「こどもいけんタイム」などで子ども達から見たい映画やアニメをリサーチしてシアターを行なってきた。子ども達の意見を反映させることができ良かったと思う。最新作品が利用者の集まりも良かった。「シアター」の問い合わせや関心度が高くなった事が実感として感じられた。子ども達の意見が良いヒントになったため、次年度はそのあたりを意識しながら行なっていきたい。

(課題と対応)

参加人数が昨年度より全体的に多くなった。ひまわりクラブの子ども達も代休日に参加できるよう、臨時で設けたりと臨機応変に上映を繰り返してきた。親子さん参加が増えている為、今後もリサーチしながら、子ども達の楽しみの1つとなれば良いと考えている。その反面「シアター」により遊戯室が利用できない事で多くの親子さんが帰っていく事があるのも事実。遊戯室で遊ぶ事を目的に楽しみにしている子ども達が多く来館しているので、「シアター」を指定の月に1回ではなく、長期休みの時やひまわりさんと相談しながら臨機応変に行うようにしていきたい。

④ アトリエじどうかん (創作活動室)

(4/3、5/8、6/5、7/4、8/7、9/4、10/2、11/6、12/4、1/8、2/4、3/4)

(自己評価)

昨年に引き続き、ボランティアの方により「アトリエじどうかん」を開催した。子ども達が楽しみながら美術に触れることが出来たと思う。ボランティアの方がとても一生懸命にイベントを行なって来て、絵や美術に興味のある子どもたちは毎回参加してくれるまでになった。実際、回を重ねる毎に子ども達の絵の塗り方の技法が上達していく事が感じられた。地域の方達との触れ合いを大切にして、今後も継続して行いたいイベントである。

(課題と対応)

興味がある子ども達が毎年、増えてきたように感じている。今年度はひまわりクラブからの参加者の人数も増えた。慣れが出てきたようなので、もっと興味が持てるような工夫を次年度は考えていかななくてはならない。子ども達の反応を見ながら新たな「アトリエじどうかん」の形をボランティアの方と作りあげていきたい。

⑤ 各種イベント

- ・ 亀田東児童館開館 9 周年記念祭 (4/22)
- ・ 育児イベント/ベビーヨガ (4/20)
- ・ カプラ大会 (5/7)
- ・ 育児イベント/ベビーマッサージ (5/18)
- ・ ひよこ広場/ミニ運動会 (5/31)
- ・ ドッジボール大会 (6/11)
- ・ ひよこ広場/七夕のつどい (7/5)
- ・ 育児イベント/ハワイアンリトミック (6/22)
- ・ 七夕の集い (小学生) (7/7)
- ・ 囲碁大会 (7/15)
- ・ 育児イベント/ベビーダンス (7/20)
- ・ 亀田地区公民館事業コラボ/おしえて! こども先生! (7/22)
- ・ 夏休みお楽しみ会/ちょうちん座 (7/28)
- ・ ぬりえコンクール (7/22~8/28)
- ・ なつまつり (7/30)
- ・ 夏休み工作ランド/新大事業コラボ (ダイナミックドミノ) 8/8
- ・ 育児イベント/親子でリトミック (8/24)
- ・ 小学生学習支援 (8/21、22)
- ・ ダイナミックカプラ (8/20)
- ・ 小学生ドッジボール大会 (9/10)
- ・ オセロ大会 (9/16)
- ・ 育児イベント/劇団たんぼぼ (9/21)
- ・ 中学生バドミントン大会 (10/15)
- ・ 小学生バドミントン大会 (10/26)
- ・ ひよこ広場/ハロウィン (10/25)
- ・ 小学生ハロウィンパーティー (10/30)
- ・ 育児イベント/親子ふれあい遊び (10/19)
- ・ 中学生学習支援 (11/1、2)
- ・ 音楽会 (11/18)
- ・ 育児イベント/県立大なかよしコンサート (11/16)
- ・ ぬりえコンクール(12/23~1/8)
- ・ 小学生クリスマス会 (12/25)
- ・ ひよこ広場/クリスマス会 (12/13)
- ・ 育児イベント/スマイルヨガ (12/26)
- ・ 新春お楽しみ会 (1/20)
- ・ ドッジボール大会 (1/5)
- ・ ひよこ広場/豆まき (1/31)
- ・ ふゆまつり (2/18)
- ・ 育児イベント/親子でリトミック (2/15)
- ・ ひよこ広場/ひなまつり (2/28)
- ・ 育児イベント/県立大アカペラコンサート (3/15)
- ・ 卒業・進級お楽しみ会 (3/20)
- ・ 将棋大会 (3/18)
- ・ 中学生学習支援 (3/1、2)

(自己評価)

毎年恒例となっているイベントに加え地域一体となった音楽会、なつまつりやふゆまつりでは、亀田東小学校区コミュニティ協議会の地域との連携、地域、学生、子ども達のボランティアの支えもあり盛大に行うことが出来、「まつり」だけで700名を超える来館者も達成した。地域と共にある児童館を目指し、その目標が毎年すこしずつ色濃く体現されていく喜びを職員一同実感することが出来た1年だった。来年度も地域の子ど

も、地域の人たちと共にある児童館を目指し運営していきたい。

(課題と対応)

イベントを企画するにあたり、より多く子ども達から参加してもらいたいという気持ちで内容を考え、日程を調整している。毎月、毎日、日々職員間で話し合い、子ども達の意見を取り入れながらイベントを行っているが、自由来館ゆえ参加者数となって成果が表れないという時もある。それでも、次はもっと楽しんでもらいたいという気持ちが、職員の次のやる気のモチベーションにも繋がっている。今後も子ども達、地域の方たちのために全力を持って楽しんで頂ける様々な活動を来年度も行っていきたい。

⑥ いどうじどうかん

(6/12、16、21、28、8/6、10、18、25、29、9/13、20、10/11、18、29、10/18、29、11/2、16、21、1/18、23、28、2/21、22、3/19、22)

(自己評価)

今年度は8クラブ、8地域、2保育園、18か所に出向き「いどうじどうかん」を行った。1/28 江南区親子ふれあいまつりを含め、1429名の方達と触れ合う事が出来た。昨年よりも依頼件数が増し、活動が増えたことは、江南区全域に児童館の役割を果たす事とPRが出来るため、非常に嬉しく感じている。また、今年度は初めて大江山保育園に出向けたことも今後のいどうじどうかんの幅が広がる要因になると思う。

(課題と対応)

活動が広まっていくにあたり、段々と職員のシフトの調整が難しくなっている。児童館外の活動が増えることは職員の負担も増えるということである。今年度は「地域と学校を繋ぐパートナーシップ事業」が各小学校で教育コーディネーターが中心となり、広げられているので児童館もそこに「移動児童館」として参加できないものかと模索している。今後もPR活動に力を入れ、職員の負担を考えながら、続けていく努力をしていきたい。

2 中学生・高校生等の年長児童の自主的な活動に対する支援

(自己評価)

中高生向けイベントを考える際に、どうしても試験、部活動の試合、練習などで来館が遠のく事も考えられる。居場所として児童館を求めている中高生がいるというのも事実。なので、来年度以降も継続して中高生が来館しやすい環境、使用しやすい環境を模索しながら整えていきたい。

(課題と対応)

中高生の来館が部活動や塾、大会等でイベント日程を決めても来られないケースが多々あるので日程を決めず、〇〇週間という形で次年度は取り組んでいきたい。「学習支援」や「スポーツ大会」等全てのイベントも週間単位で行っていきたい。

⑦ 学習支援（中学生）

（自己評価）

今年度から始めた行事である。中学生の意識が「児童館」は遊ぶ所であって勉強する所ではないという考えがあるので、まずはそこから認識を変えていかなくてはならないと痛感した、11月は1年生が試験前に多数来館したので、学生ボランティアと講師と一緒に学ぶ事が出来た。しかし、冬場の1月が大雪のため、来館が見込めず中止となった。今後は児童館でも学習支援の場が必要である事は解っている。これからも持続して中学生にとっての勉学に勤しむ居場所としても続けていきたい。

（課題と対応）

冬場の設定は5時を過ぎれば小学生が退館するため落ち着いて勉強できるかと考えたが、大雪のため自転車で来館出来ないという事がわかった。次年度は上記にも書いたが、試験日を踏まえ、部活動停止日のリサーチをしっかりと押さえながら、冬場以外に日にちではなく、「学習支援」週間を設定し、学生ボランティアと職員で対応していきたい。勉強の居場所としての定着を進めていけるように努力していきたい。次年度は夏休み中に「中高生交流の場」を設定していきたい。地域の方からの発案だが、「高校ってどんなところ？」をテーマに現高校生から現中学生に教えてくれるような「座談会形式」に持っていけるよう目標にあげて進めていきたい。

3 子ども会等の地域組織活動の育成助長及び指導者の養成

① こどもいけんタイム（創作活動室）

(4/8、5/13、6/10、7/8、8/12、9/9、10/14、11/11、12/9、1/13、2/10、3/10)

（自己評価）

今年度の「こどもいけんタイム」前半は子ども達から、いつもの「児童館でやってみたい事」や「どんな遊びがいいか」「どんなシアターが観たいか」などの質問タイムだったが、後半は「こどもボランティア」メンバーが中心となり、活動ができる展開となった。イベントには欠かせない人材として少しずつではあるが成長してきている。必ず「いけんタイム」には参加して、どうしたらイベントが楽しくなるかななどを自発的に話し合ってきた。準備活動に充てたり、意見交換の場として有意義な場になれた1年だった。

（課題と対応）

ボランティアメンバーの中にも意識の持ち方が様々で約束を守ろうと一生懸命、努力する子もいるが、中にはイベントのおいしい所だけ参加し、準備には来ないという残念な意識の子もいた。そこの持って行き方を変えなくてはならない。次年度は準備や練習も出て来れる子だけ募集をしようと考えている。（人数が少なくなっても人材育成が目的だから。）

次年度は名称を変え、「こどもいけんタイム」から「こども会議」として「こどもボランティア」のメンバーが中心となり、イベント内容の会議に変更していきたい。

子ども達の考えや目線を中心にしたイベント運営に切り替えていくべく、大切な意見の場として持っていきたい。そこには当然イベント内容だけではなく、遊びやゲーム、シアターなどなど、今の子ども達がやってみたい事、古き良き遊びの良さを職員が伝えられる、そんな場にしていきたい。

4 子育て家庭の支援

①ひよこ広場（毎週水曜日10時30分～）

（自己評価）

昨年度同様に今年度もたくさんの乳幼児親子が参加してくれた。亀田東児童館の特徴である広い遊戯室を使ってかけっこなど運動面や目で見て楽しい、耳で聞いて楽しい内容に工夫を凝らした。職員による「寸劇」は毎回、お母さん達の笑いの場となり、少しでも癒しの場となれた事に嬉しさを感じた。また、就園を間近に控えた保護者の方に好評だったのは団体でのチーム行動や知的要素を取り入れた活動であった。そこで自分の子どもの成長を実感したという声も聞かれ、来年度も保護者の声を聴きながら、楽しい取り組みを行っていききたい。

（課題と対応）

参加人数が増えるにあたって、駐車場の問題やトラブル、事故等に一層注意を細やかにしていかなければいけない。亀田東小学校やひまわりクラブなど近隣の施設に協力を頂きながら駐車場の問題に取り組んできた。来年度の状況がどうしても対策が尽きたら、児童福祉係の方と相談していききたい。もう一点は、企画が楽しくても、子ども同士のケガにつながっていくようであれば意味をなさないの、その点も職員間で連携を密にしていかなければいけないのも必須である。（保護者のマナーがいいのがとても有難かった。）多くの常連親子さんが今年度で卒業されるので、また新たな常連さんを作るべく努力をしていかなければいけない。笑顔を忘れずに迎えていききたい。

④子育てイベント（毎月1回）

（自己評価）

お母さん達の声やニーズをリサーチしながら毎月行ってきた。まずは無事故で終えた事に安堵している。お母さん達と子どもの触れ合いの場になったり、お母さんのリラクスの場になったりと色々な意味で好評の場であった。今年度は、「学生コンサート」を実施する事が出来、お母さんや幼児さん達にも喜ばれていた。学生の発表の場を提供できる事と親子さんからのアンコールの声が高かった事で次年度も企画していききたい。今年度は鑑賞型のイベントを多く取り入れた事によって、近隣の保育園、幼稚園からの参加も多くみられた。その事で繋がりをつけられたので、3月に「入学前交流会」として区内の小学校に入学する園児さんを対象にミニゲームや歌の発表などを行う事が出来た。

（課題と対応）

今年度行う初の「国際音楽エンターテイメント」専門学校の学生の発表予定が大雪のため、中止となってしまった事が残念だった。また次年度も大学や専門学校にも声をかけ、学生の発表の場となれるような劇、ダンス、人形劇などのイベントも組み込んでいきたい。親子で楽しめる工夫と安全面を考慮しながら楽しい児童館イベントを今後も企画していききたい。

5 その他地域の児童の健全育成に必要な活動

今年度は第 15 回、第 16 回の亀田東児童館運営協議会を開催した。亀田東小学校長をはじめ、亀田中学校長、亀田中学校地域教育コーディネーター、亀田東小学校区コミュニティ協議会会長、江南区社会福祉協議会、保護司、指導保育士、児童委員の方々を委員とし、今年度は委員 9 名で行えた。今年度の協議内容はおおむね例年通りに年間行事予定、移動児童館の報告や利用者推移について議論され忌憚のない意見を出していただいた。そして何よりも、委員の方たちが児童館の必要性を理解していただき、児童館と一緒に広め、盛り上げてくださることが心強かった。そして、地域密着の児童館を目指し、来年度も、より良い児童館にして行くために御尽力いただけるよう、児童館運営をさらにより良くしていきたいと思う。また地域の方から提案が出た、新たな「中高生交流の場」の設定を目指していきたい。

総括・評価

今年度も年間利用者数で親子さん、小中学生の利用が大幅に増えたことが、私たちにとって何よりの励みとなった。それは、1 年間地域の子ども達やその保護者に児童館を利用してもらった中で、私達職員の課題を常に皆で話し合い、視点を同じにして業務をチームで頑張ってきた事が保護者の方に理解や共有をして頂けたと思っている。しかし、だからといって反省点や改善点が無いわけではない。日々の業務やイベントを通じて、その都度反省・改善をし、それを次に活かしていくことがより良い児童館を作る上で大切だと私たち職員が分かっているからである。いよいよ次年度は 10 周年を迎え、大きな節目となる。今後も皆さんと共に歩む「亀田東児童館」であり、地域の拠点となれるよう努力をし、日々の業務を大切に、地域の人たちや子ども達に、一步一步寄り添えられる児童館を作りあげていきたいと思う。